

vol. **03**

平成29年度 第3号
(年間4回発行 通巻第145号)

組合活性化情報 中央会とくしま

新年のごあいさつ

特集

平成29年度 徳島県の労働事情

徳島県中小企業団体中央会 <http://www.tkc.or.jp/>



組合活性化情報 中央会とくしま

vol. **03**

平成29年度 第3号
(年間4回発行 通巻第145号)

新年のごあいさつ

徳島県中小企業団体中央会
会長 山本 紘一

2

特集

平成29年度
徳島県の労働事情

3



株式会社 石飛製作所

10

組合ホットニュース

12

- ◎株式会社 絹や(協同組合 繊維センター組合員)
徳島県頑張る中小企業大賞優秀賞受賞!
- ◎徳島県鉄鋼協同組合
率先避難企業訓練を実施&
未来を守る防災活動賞受賞!
- ◎徳島県中古自動車販売商工組合青年部
チャリティボウリング大会開催

情報連絡員レポート

13

平成29年11月の景気動向

青年部コーナー

14

◎青年部活動トピックス

中央会トピックス

16

- ◎第69回中小企業団体全国大会開催
- ◎徳島ビジネスチャレンジメッセ2017出展
- ◎四国4県中小企業団体中央会合同ものづくり企業
展示商談会を開催
- ◎中小企業新ものづくり・新サービス展2017
(大阪・東京)出展
- ◎大学と業界団体が協調した中小企業人材定着支援
事業を実施
- ◎とくしま消費者志向経営推進組織を発足しました。
- ◎「とくしまエコパートナー協定」締結しました。

楽にいこう

20

「チャンクを意識して、コミュニケーションを円滑に」



備中松山城/群盗

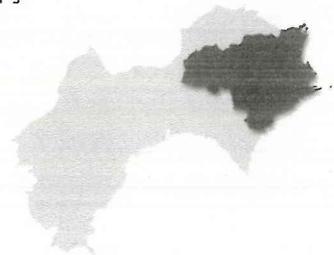
22

お知らせコーナー

23

◎雇用関係助成金のご案内

編集
後記



表紙絵

作者：徳島県中小企業団体中央会顧問 布川 嘉樹氏

タイトル：「南阿波サンライン」

県南の日和佐町から牟岐町まで、黒潮洗う海岸線に沿って走る全長18kmの観光道路です。起伏にとんだ眺めが素晴らしい。この周辺の岸壁には、ウバメガシ、クロマツがびっしり張り付くように生え、千羽海崖展望台、日和佐浦展望台等、ポイントごとに展望台があります。そこからは、室戸阿南海岸国定公園の美しい海岸線と雄大な太平洋の景観を一望できます。途中の千羽海崖では、高さ200mもある断崖絶壁が太平洋に向かって2kmにわたって続いています。また付近は格好の釣り場として有名です。徳島県南部は公害が少なく空気が美しいため天体観測に適すとされ、関西各地から天体マニアが集まります。



新年のごあいさつ

徳島県中小企業団体中央会

会長 山本 紘一



明けましておめでとうございます。
皆様方には、お健やかに新年をお迎えになられたことと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日経平均株価が21年ぶりに22,000円を回復し、2012年12月から続いている景気回復の局面も「いざなぎ景気」を超え戦後2番目の長さとなることが確実視されるなど、我が国経済は緩やかな回復を続けました。しかしその一方で、多くの中小企業とりわけ小規模事業者においては、人手不足の深刻化等の諸課題に直面し、収益状況の改善が進まず、景気回復の実感を得るまでには至っていません。

加えて、経営者の高齢化、急速に進む技術革新や経済のグローバル化等中小企業を取り巻く経営環境は、依然として不透明な状況にあります。

このような環境の中であって、地域経済を担い、雇用と暮らしを支える中小企業が、経済好循環の主役になるためには、自らが事業環境の変化に対応し、生産性の向上や収益力の強化を図ることが求められます。そのためにも、多様な経営資源を相互に補完する協同組合等の中小企業連携組織を活用し、諸課題の解決に向けた果敢な挑戦が益々重要となってきます。

本年「戊」は、笑いの戌年であります。地域経済の再生と活性化にとって喫緊の課題は、地元企業が一日も早く、揃って元気と笑いを取り戻すことでもあります。また、本年は戊戌（つちのえいぬ）で、陰陽五行では比和となります。比和とは、同じ気が重なることによって勢いが増し、大きな変化をもたらすと言われております。まさに「組合の時代」の到来であり、これまで考えもしなかった新しいビジネスモデルに挑戦する好機が訪れるものと大いに期待致しております。

本会といたしましても、ものづくり・新サービスに対する助成や、IT利活用、人材育成に係る講習会の開催をはじめとする積極的かつ多面的な支援により、懸命の努力を続けている中小企業の経営力強化を推進して参ります。特に、中小企業連携組織の専門支援機関として、組合等の連携組織が持つ企業同士の「つながる力」を大いに発揮して、中小企業、中小企業組合が持続的な成長・発展を実現できるよう、新たな時代に即した事業を積極的に展開し、徳島県経済の活性化に全力で取り組んで参りますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、今後ともより一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様方にとって明るく希望に満ちあふれた素晴らしい飛躍の1年となりますよう祈念しまして、年頭のご挨拶といたします。

特集

平成29年度 徳島県の労働事情

～中小企業労働事情実態調査報告書(抜粋)～

内閣府が発表した月例経済報告によりますと、2017年の我が国経済の基調判断は政府による積極的な経済政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続いていると言われております。しかし、平成29年1月にドナルド・トランプ氏が米国の第45代大統領に就任したことや英国の欧州単一市場離脱表明、更には海外情勢の不安定な状況などより、国内経済への悪影響が強く懸念される状態であります。

また、為替相場における円高止まりや慢性化する労働力不足による今後の企業マインドへの影響が憂慮されます。

一方、徳島県内の景況に目を転じますと、労働需給が引き締まり傾向にあるなど景気は回復基調が続いていると言われておりますが、依然続く消費マインドの低調な推移に加え、不安定な為替相場により企業収益が圧迫されるなど景況のもたつきが鮮明になっております。さらに人員の不足感は既往ピークの水準で推移しており、今後の課題として雇用情勢回復による労働力不足の逼迫、また人口減少と少子高齢化の急速な進展が現実のものとなり、この中で新たな経済成長に向けた取り組みが不可欠であります。

こうした中、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、有期労働契約から無期契約への対応など労働事情を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。中小企業にとって重要な経営資源である人材を確保するためには、雇用環境の整備など従業員の多様な働き方への対応が各企業に求められます。

本調査では県内の中小企業を対象として経営状況や経営上の強み、週所定労働時間をはじめとする労働時間、賃金改定の実施状況、新規学卒者の初任給に加え、今年は新たに障がい者の雇用状況や従業員の過不足状況についての調査を行い、結果を取りまとめました。

〔I〕 調査のあらまし

1. 目的

本調査は、徳島県内の中小企業における労働事情を的確に把握し、労働環境の整備・改善の指標となることを目的として昭和39年より毎年全国一斉に実施しており、本年度も調査を実施したものである。

2. 調査の方法

当中央会が調査対象事業所（600事業所）を任意に抽出し、調査票を郵送にて送付・調査回収したものを全国中小企業団体中央会において一括集計したものである。

3. 調査対象並びに事業所数

調査対象事業所は従業員300人以下の中小企業600事業所で次の業種を対象とし、製造業57.5%、（345事業所）非製造業42.5%（255事業所）の割合で調査したものである。

製 造 業	非 製 造 業
1. 食料品製造業	1. 運輸業
2. 繊維工業	2. 建設業
3. 木材・木製品製造業	a. 総合工事業

4. 印刷・同関連業
5. 窯業・土石製品製造業
6. 化学工業
7. 金属・同製品製造業
8. 機械器具製造業
9. その他の製造業

- b. 職別工事業（設備工事業を除く）
- c. 設備工事業
3. 卸売業
4. 小売業
5. サービス業
 - a. 対事業所サービス業
 - b. 対個人サービス業

4. 調査時点

平成29年7月1日現在

〔Ⅱ〕 回答事業所の概要

1. 調査回収の状況

今回調査の回答事業所は、224事業所であり、産業別にみると、製造業が133事業所で従業員数は4,735人、非製造業が91事業所で3,281人となっている。これを従業員規模別でみると「1~9人」規模が74事業所で33.0%と最も多く、続いて「10~29人」規模が66事業所で29.5%、「30~99人」規模が63事業所で28.1%、「100~300人」規模が21事業所で9.4%となっている。

2. 労働組合の有無

労働組合の状況についてみると、回答数224事業所のうち、労働組合が企業別に組織されている事業所、並びに従業員が何らかの労働組合に加入していると回答したものが15事業所で、組織率は6.7%であった。（前年18事業所、組織率8.0%）

これを、従業員の規模別にみてみると「100~300人」規模21事業所のうち8事業所（組織率38.1%）に労働組合があり、「30~99人」規模では63事業所中4事業所（組織率6.3%）にあるという回答を得た。労働組合がある15事業所のうち12事業所（組織率80.0%）が30人以上規模の事業所であるという結果となった。

また、業種別に見ると、製造業では11事業所（組織率8.3%）、非製造業では4事業所（組織率4.4%）の事業所に労働組合があるとの回答であった。

3. 雇用形態別構成比

雇用形態を「正社員」、「パートタイマー」、「派遣」、「嘱託・契約社員」、「その他」の5つの形態に分類して調査を行った。結果、従業員の雇用形態は「正社員」は80.6%（対前年比4.1%増）、「パートタイマー」は11.9%（対前年比1.9%減）、「派遣」は1.4%（対前年比0.3%減）、「嘱託・契約社員」は4.9%（対前年比1.6%減）、「その他」は1.2%（対前年比0.3%減）となっている。

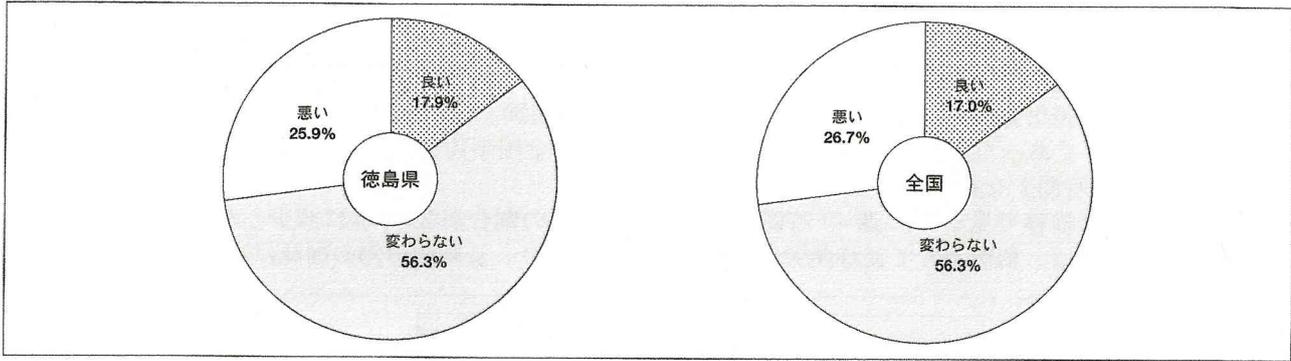
男女比率で見ると、正社員雇用の「男性」は88.7%（対前年比3.1%増）、「女性」は64.4%（対前年比7.3%増）という結果が出た。前回の調査時に比べ「男性」「女性」ともに正社員の割合が微増となった。

〔Ⅲ〕 調査結果の概要

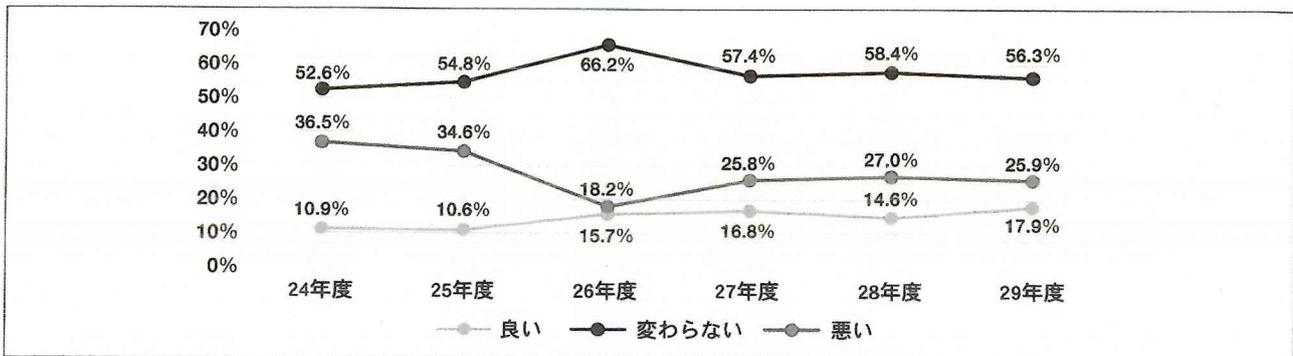
1. 経営状況

(1) 経営状況

経営状況は1年前と比べてどう思うかについて回答を求めたものであり、徳島県全体では「良い」と回答した事業所は17.9%（対前年比+3.3%）、「変わらない」は56.3%（対前年比-2.1%）、「悪い」は25.9%（対前年比-1.1%）となっている。平成24年度からの全体の推移を見ると、「良い」の回答が増加傾向にあり、「変わらない」「悪い」の回答は減少傾向にある。



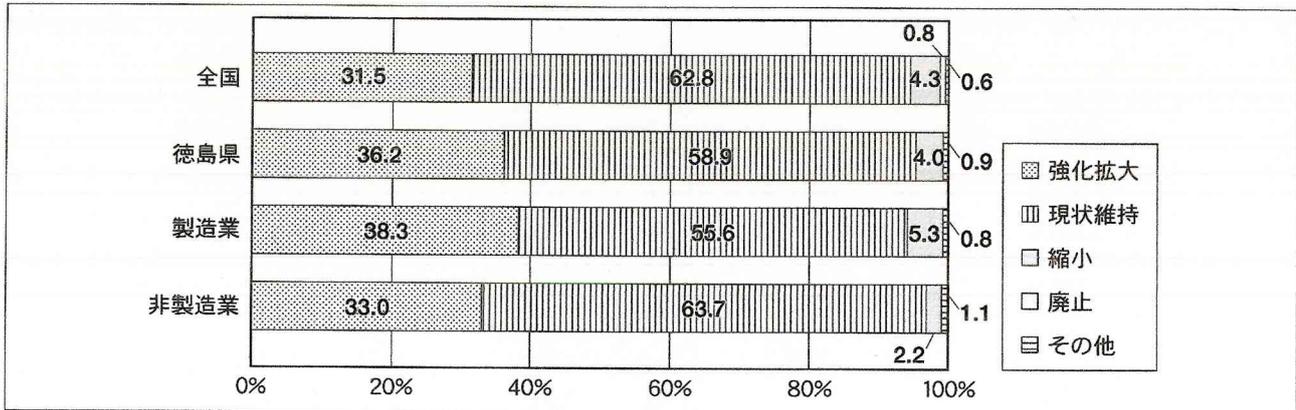
＜経営状況＞



＜徳島県の経営状況の推移＞

(2) 主要事業の今後の方針

主要事業の今後の方針については、回答数 224 企業のうち「現状維持」が全体の 58.9% と半数以上を占めており、次いで「強化拡大」が 36.2%、「縮小」が 4.0%、「廃止」と回答した事業所はなかった。今年も「現状維持」の回答が多かったものの、対前年比 7.9% の減少となった。それに対し、「強化拡大」は 7.9% の増加、「縮小」においても 0.5% の増加という結果になった。「廃止」は対前年比 - 0.4% と僅かながら減少。



＜主要事業の今後の方針＞

(3) 経営上の障害

中小企業における経営上の障害について 12 項目を列举し、その中から 3 項目以内複数回答を求めた。徳島県全体では「人材不足 (質の不足)」で 48.0% (前年 43.1%) との回答が最も多く、「販売不振・受注の減少」で 31.4% (前年 36.4%)、「同業他社との競争激化」で 30.0% (前年 30.7%) が経営上の障害として上位にあげられた。

(4) 経営上の強み

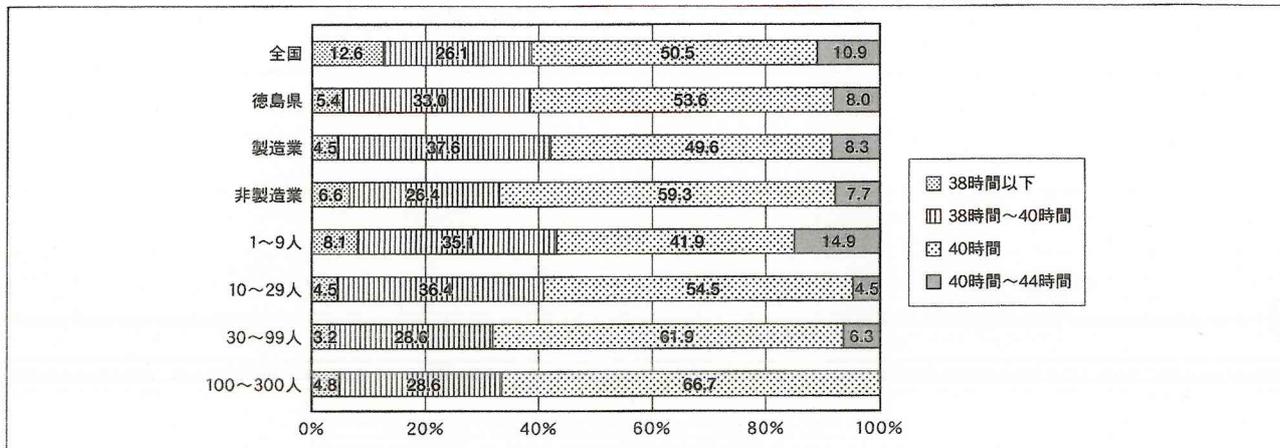
中小企業における経営上の強みについて 12 項目を列举し、3 項目以内複数回答を求めた。最も多かった回答が「製品の品質・精度の高さ」で 28.7% (前年 25.7%)、続いて「製品・サービスの独自性」が 25.6% (前年 25.2%)、「技術力・製品開発力」24.7% (前年 24.3%) と「顧客への納品・サービスの速さ」24.7% (前年 18.5%) が並んだ結果となった。

2. 従業員の労働時間

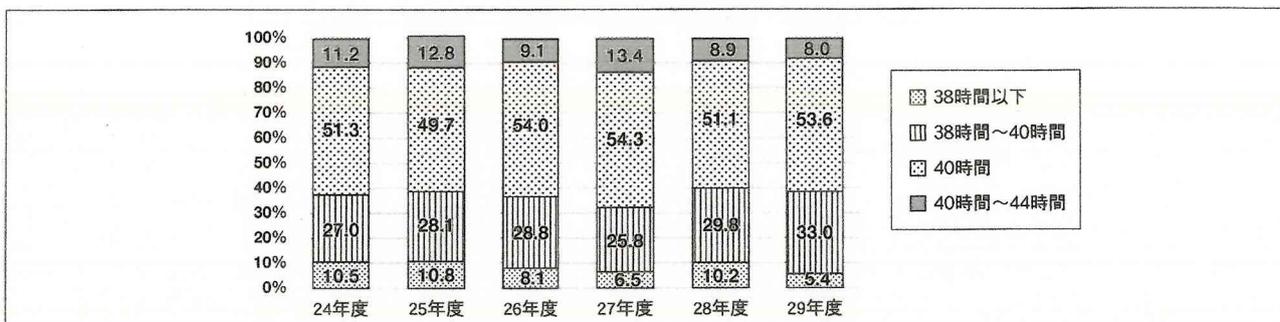
(1) 週所定労働時間

従業員の週所定労働時間は、徳島県全体では昨年同様「40時間」と回答した事業所が最も多く53.6%（全国平均50.5%）であった。次いで「38~40時間」の33.0%（全国平均26.1%）であった。「30~99人」の事業所で「週40時間」を超える割合が高い。

過去5年間の推移で見ると、「週40時間」を超える事業所の割合が28年度に減少したが、今年度は微増。我が国においては、依然として長時間労働が問題となっており、長時間労働の削減は喫緊の課題である。



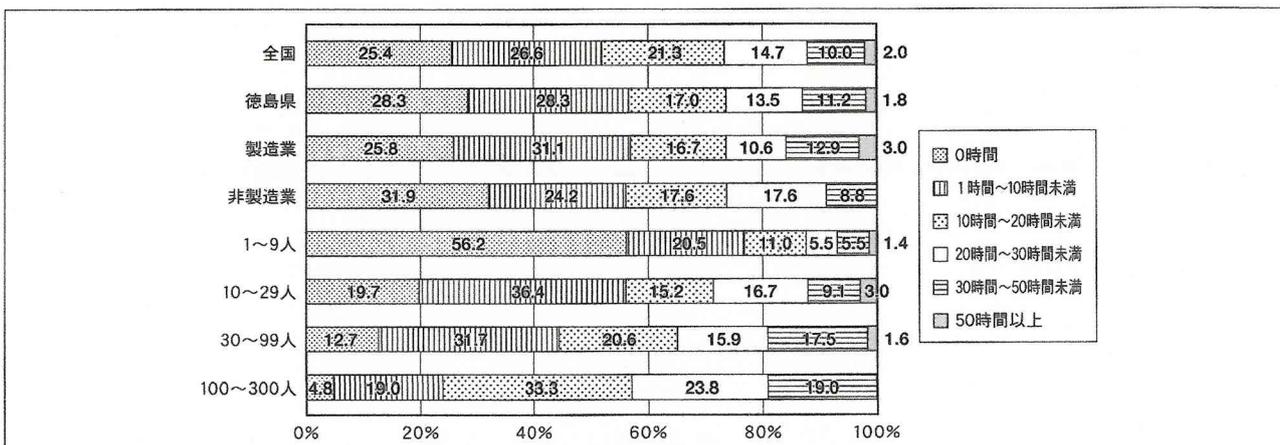
<週所定労働時間>



<徳島県の週所定労働時間の推移>

(2) 月平均残業時間

従業員一人当たりの月平均残業時間については、徳島県では11.93時間、全国平均12.00時間であり、前年より1時間多くなっている（前年 徳島県10.93時間）。規模別で見ると、「1~9人」の事業所で「残業なし」と回答した割合が半数を超えた。



<月平均残業時間>

(3) 平成29年の従業員1人当たりの年次有給休暇の平均付与日数・取得日数

平成29年の徳島県の平均年次有給休暇の付与日数は15.24日(全国平均15.63日)であり、これに対して、平均取得日数は7.12日(全国平均7.56日)、平均取得率は50.24%(全国平均50.95%)という結果となった。

3. 新規学卒者の充足率・初任給

平成29年3月卒の新規学卒者の採用計画に対し、計画通り採用できた事業所の割合(採用充足率)をみると、「高校卒」81.4%(前年82.0%)、「専門学校卒」92.3%(前年100.0%)、「短大卒(含高専)」100.0%(前年100.0%)、「大学卒」80.0%(前年84.0%)の充足率となっている。

(1) 初任給(平成29年3月卒)

徳島県における新規学卒者の初任給は、次表のような回答結果となっている。高校卒の技術系及び大学卒は技術系、事務系の初任給が上昇となった。

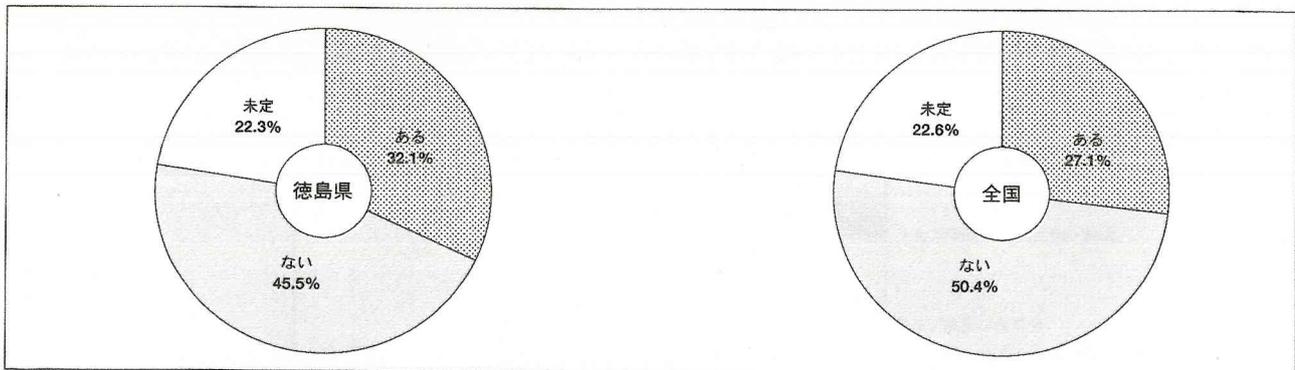
		初 任 給				参 考	
		単純平均	(前年比)	加重平均	(前年比)	前年度(単)	前年度(加)
高 校 卒	技術系	159,059	100.9	159,605	103.8	157,563	153,743
	事務系	142,238	93.6	141,360	92.5	151,940	152,693
専門学校卒	技術系	170,728	99.3	170,032	98.9	171,850	171,850
	事務系	165,791	0.0	165,791	0.0	-	-
短大卒 (高専含)	技術系	167,225	95.7	167,225	95.7	174,700	174,700
	事務系	170,000	97.1	170,000	97.1	175,000	175,000
大 学 卒	技術系	195,099	104.3	196,875	100.9	187,047	194,996
	事務系	183,522	104.3	182,448	103.7	175,913	175,913

<新規学卒者の初任給>

(2) 新規学卒者の採用

平成30年3月の新規学卒者の採用計画で「採用計画がある」と回答した事業所は32.1%(前年27.9%)、「ない」が45.5%(前年50.4%)、「未定」が22.3%(前年21.7%)となっている。

徳島県では「採用計画がある」と回答した中小企業が増加傾向にある一方、「採用計画がない」企業は5割近くであり、新規学卒者の就職環境は依然として厳しい状況にあると言える。

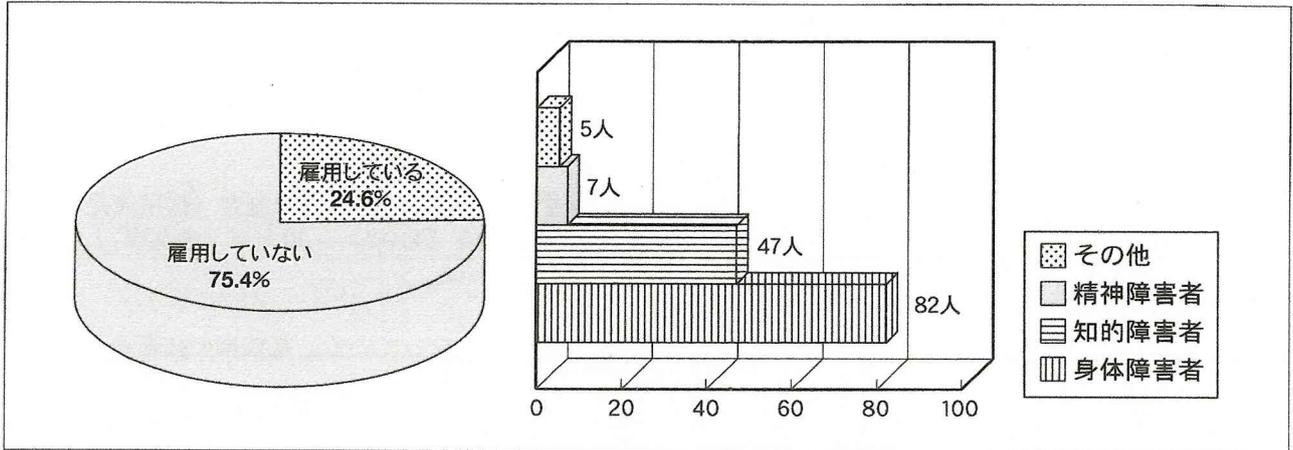


<新規学卒者採用計画>

4. 障がい者の雇用状況について

(1) 障害者の雇用状況

標記の件について回答を求めたところ、「障害者を雇用している」と回答した事業所は224事業所中55事業所(24.6%)、一方、「障害者を雇用していない」と回答した事業所は169事業所(75.4%)という結果であった。(次頁グラフ参照)



＜障がい者の雇用状況及び雇用人数＞

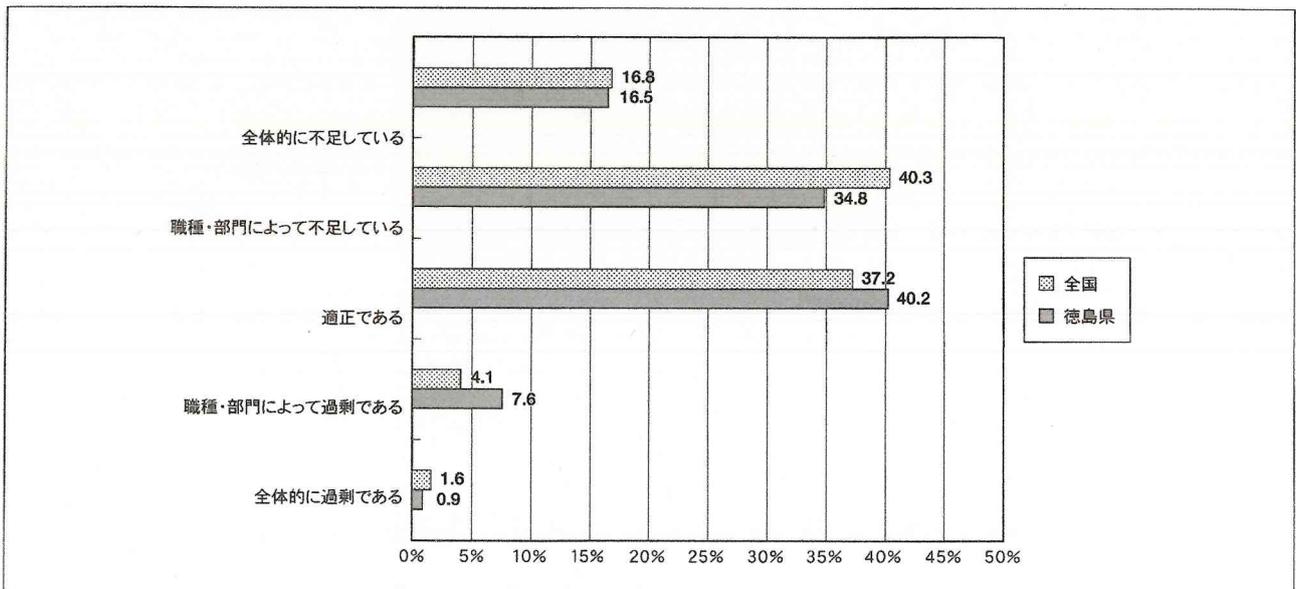
(2) 現在雇用していない場合の今後の雇用予定

(1) で「障害者を雇用していない」と回答した事業所に対し、今後障害者を新規に雇用する予定があるかについて回答を求めたところ、「雇用する予定がある」と回答した事業所はわずか4.1%、また「雇用を検討中である」が16.0%、「雇用する予定がない」が79.9%という結果になった。

5. 従業員の過不足状況について

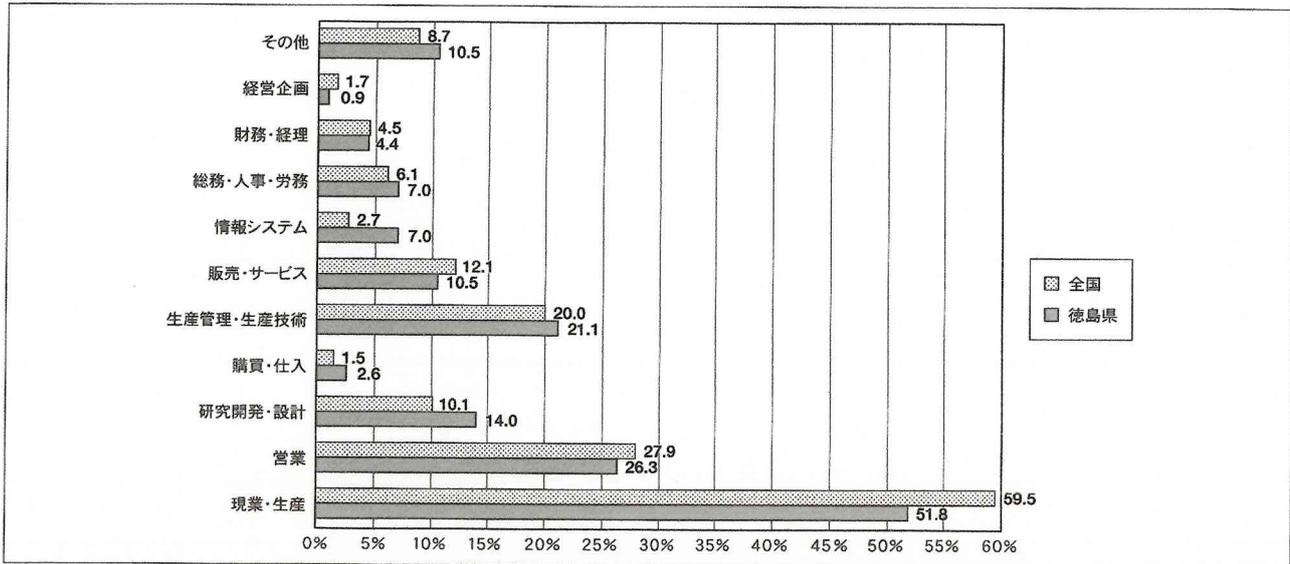
(1) 従業員の過不足の有無

標記の件について回答を求めたところ、従業員が「全体的に過剰である」と回答した事業所は224事業所中0.9% (2事業所)、「職種・部門によって過剰である」7.6% (17事業所)、「適正である」40.2% (90事業所)、「職種・部門によって不足している」34.8% (78事業所)、「全体的に不足している」16.5% (37事業所)であった。徳島県では「適正である」との回答が多かったものの、全国平均では「職種・部門によって不足している」との声が多く、中小企業の労働力不足が窺える。



＜従業員の過不足状況＞

(2) (1)で「全体的に不足している」或いは「職種・部門によって不足している」と回答した事業所に対し、どのような職種・部門の従業員が特に不足しているかについて3項目以内複数回答を求めたところ、徳島県、全国平均ともに「現業・生産」の職種・部門が最も従業員が不足しているという結果になった。



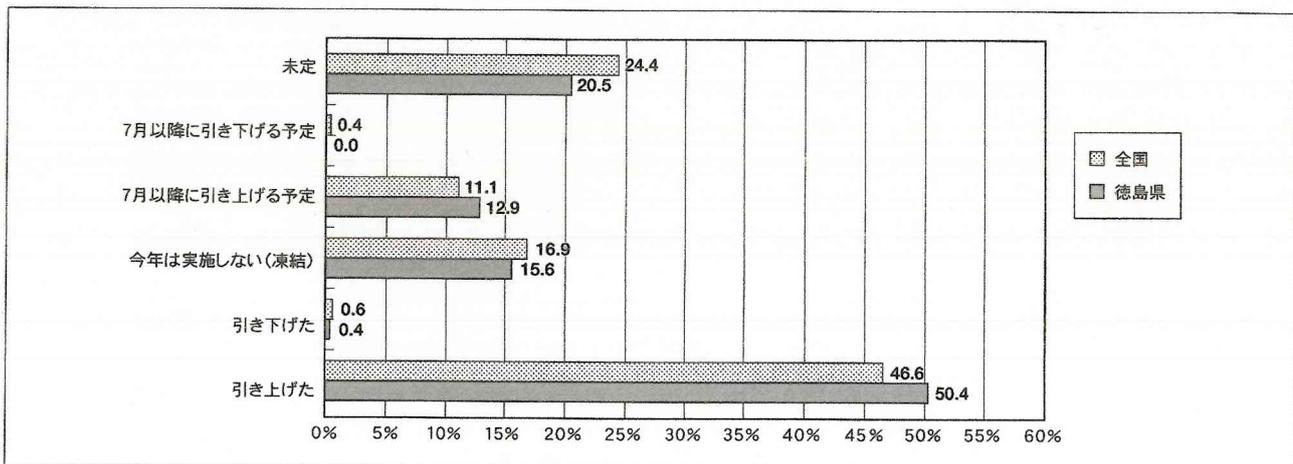
<従業員が不足している職種・部門>

6. 賃金改定状況

(1) 賃金改定の実施状況

平成29年1月1日から調査時点(7月1日)までの賃金改定状況は、「引き上げた」50.4%(全国平均46.6%)、「7月以降引き上げる予定」12.9%(全国平均11.1%)をあわせて63.3%(全国平均57.7%)となった。徳島県でも昨年10月5日に最低賃金が740円に引き上げられた事を受け、昨年より「引き上げた」或いは「引き上げる予定」と回答した事業所が増加した。

逆に、「引き下げた」事業所は0.4%(全国平均0.6%)、「7月以降引き下げる予定」の事業所はなかった。(全国平均0.4%)。また、「未定」が20.5%(全国平均24.4%)、「今年は実施しない(凍結)」は15.6%(全国平均16.9%)といった回答結果となった。



<賃金改定の実施状況>

(2) 賃金改定の内容

(1)において、賃金の引き上げを実施或いは7月以降の引き上げを実施予定としている中小企業に対して賃金の改定内容について調査したところ、最も回答が多かったのは「定期昇給」62.0%(全国平均53.7%)、続いて「基本給の引き上げ(定期昇給制度のない事業所)」が33.1%(全国平均35.8%)、「ベースアップ」が10.6%(全国平均14.8%)という結果になった。(複数回答)

また、徳島県内において7月までに賃金改定を行った事業所の賃上げ状況は、全産業で労働者1人当たりの単純平均額4,654円(平均昇給率2.06%)、加重平均額は4,288円(平均昇給率1.80%)となっている。

ものづくりの 達人

株式会社石飛製作所

中央会の助成事業である「ものづくり中小企業支援事業」に採択された県内中小企業の皆様を「ものづくりトップランナー」としてご紹介するコーナーを平成 27 年度より設けています。

第 11 回目は「革新的技術を用いたステンレス溶接時のスケール除去剤及び整流器の開発（平成 24 年度）」、「ステンレス材の革新的表面処理剤の事業化に向けての取り組み（平成 26 年度）」をテーマに取り組みました株式会社石飛製作所様をご紹介します。

同社は、ステンレス溶接時に用いられるスケール除去剤の開発と、除去作業の効率化を図る整流器の開発に取り組み、製品を完成させました。ステンレス溶接を必要とする業界のあらゆるニーズに対応されており、お客様からの大きな信頼を獲得されている注目の企業です。この度は、永らく開発の中心的役割を担われてきた石飛会長にお話を伺いました。

1 御社の沿革と、特にステンレス鋼溶接時に用いるスケール除去剤の開発に取り組まれるようになった経緯をお聞かせください。

大正 14 年（1925 年）鳴門市撫養町で鉄工所をスタートし、昭和 35 年（1960 年）小型船舶のエンジンの修理を始めました。

昭和 37 年（1962 年）8 月現在の会社を設立し、メンテナンス以外に機械の設計・製作・加工・組立まで手掛けるようになりました。

昭和 40 年（1965 年）頃よりステンレス鋼を使った機械の普及によりステンレス鋼の溶接作業も増えていきました。ステンレス鋼溶接時には一般的にスケール（溶接焼け）や変色が生じます。特に食品機械や薬品製造機械では、それを除去する必要があり、毒性のフッ化水素酸や劇物の硝酸が使われていました。これらを使った除去作業は、作業者にとって極めて危険なものでした。作業時の危険防止策には努めておりましたが、より安全に使いやすい薬品を開発することが最も効果的と考えていました。

そこで、平成 24 年度のものづくり事業を機会に、刺激臭がなく、劇毒物の薬品を使わない等の環境に優しいスケール除去剤の開発と作業時間を短縮できる高性能の整流器の開発に取り組むことにしました。



石飛富夫会長

2 平成 24 年度、平成 26 年度のものづくり事業の内容と成果についてお聞かせください。

平成 24 年度事業では、安全なスケール除去剤の開発と、作業のスピードを上げるための整流器の開発をテーマに取り組みました。

その結果、これまで使用されていた毒物のフッ化水素酸を使わず、また劇物の硝酸の濃度も 10% 以下に抑え、刺激臭や揮発性も抑えることができ、毒物・劇物に該当しない薬品の開発に成功しました。

さらに、本事業で開発したスケール除去剤の能力を十分に発揮する整流器を完成させることができ、これらについての特許を取得しました。

ステンレス鋼溶接部スケール除去剤：特許 5650860 号
溶接焼け除去法：特許第 6062989 号

平成 26 年度事業では、スケール除去剤の事業化（商品化）に向けて、原料タンクや攪拌タンクなどを導入することにより、試作試験を行い、スケール除去剤の粘度の安定化と製造条件の確立を図ることができました。

試作した設備をユーザーに提供し、一部販売も行っています。現在は実験的な装置のため、



スケール除去剤

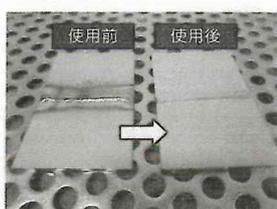


除去作業の効率化を図る整流器

今後本格的な生産体制を構築するよう準備を進めています。

3 溶接技術の発達やロボット等による操作性の進歩などで溶接を取り巻く環境もかなり変化しています。今後の方向性と安全・安心に向けた取り組みについてお聞かせください。

ステンレス溶接部のスケール除去作業は、対象物の大きさや形が多種多様であり、ロボット技術が発展しても、人間が行う作業は残ると考えています。開発したスケール除去剤は、作業



スケール除去剤の使用前後

者にとって安全・安心であるとともに、薬品処理後の洗浄が簡単であるなど地球環境に優しい製品になりました。将来的にも必要とされる商品であると自負しています。

4 今後の展望についてお願いします。

本事業において開発したスケール除去剤と整流器は、ステンレス溶接を必要とする業界において、環境に優しい次世代の製品として通用すると考えています。これらを使用することにより、溶接部分がよりきれいな表面に仕上がると同時に、処理時間の短縮によるコストダウン及び現場の労働環境の改善を図ることができ、産業機械製造過程において作業上の問題を一挙に解決することができます。

今後はさらに本事業で開発したスケール除去剤と整流器の生産販売事業を、当社の基盤事業のひとつとして展開できるように考えています。弊社だからできると言えるほどの、他にはない魅力を商品・サービスに付加し、伝統と技術に思いをのせて次の世代に繋げていきたいと思えます。

5 最後に、経営指針を表現されている御社のマークの由来についてお聞かせください。

弊社のマークにあるIとTは石・飛のIとTではありません。Intelligence(知の緻を考える)とTechnology(機の技を磨く)を意味しています。左右の輪はHarmony(輪の和を作る)

とCommunication(和の輪を広げる)を表しています。さらにFlexible(柔軟性、自由自在、順応性)を加え、5つの言葉を大切に人づくりを行っています。

社員が一つになることはこの上ない大きな力になります。仕入先、取引先、下請けを包含した、いわば、弊社のマークのように、ひとつの組織体を構成して、お互いに健康で、生活の向上を目指すよう心がけています。



(株)石飛製作所のロゴマーク

【今回取材を通して】

「人との繋がりや調和」を大切にしながら、「誰かのために」と「安全安心なものを提供する」という理念のもと、絶えず付加価値の高い製品づくりに取り組まれ、技術力の向上を図っておられる姿に感銘を受けました。

「たとえ小さな一歩でも、昨日より確実に前へと進んでいること。」それこそが、同社のモットーであると教えて頂き、私自身も自分の仕事の進め方を考える上で大変勉強になりました。

お忙しい中、快く取材に応じてくださいました石飛会長、本当にありがとうございました。

企業の概要

○会社名	株式会社石飛製作所
○所在地	徳島県板野郡松茂町 満穂字満穂開拓 115-2
○電話	088-699-5633
○FAX	088-699-4718
○E-mail	ishitobi@ishitobi.co.jp
○代表取締役社長	石飛 博樹
○創業	大正14年(1925年)
○設立年月日	昭和37年(1962年)
○従業員数	30名
○事業内容	生産用機械器具製造業
○資本金	1,000万円



組合ホットニュース

平成 29 年度徳島県頑張る中小企業大賞「優秀賞」 協同組合繊維センターの組合員である株式会社絹やが受賞されました！

平成 29 年 10 月 12 日(木)、徳島市のアスティとくしまで開催された徳島ビジネスチャレンジメッセ 2017 において、平成 29 年度「徳島県頑張る中小企業大賞」の表彰式が行われ、当組合の組合員である株式会社絹やが「優秀賞」を受賞されました。

徳島県頑張る中小企業大賞は、経営革新計画の承認を受けて成果をあげた企業や特徴的な新たな取組みを実施し、本県中小企業の模範となるような企業を顕彰する制度です。県内中小企業の意欲を高めるとともに、経営革新を一層促進し、地域経済の活性化を図ることを目的に、平成 22 年度に創設されました。審査委員会での審議の結果、今年度は最優秀賞として 1 社、優秀賞として 2 社が選出されました。



(協)繊維センター山田理事長

率先避難企業訓練を実施&未来を守る防災活動賞「徳島県知事表彰」受賞 ～徳島県鉄鋼協同組合～

平成 29 年 11 月 2 日(木)、徳島県小松島市金磯町の鉄鋼団地において、巨大地震などが起こった際、津波からの避難を周囲に呼びかけながら先頭に立って避難する「率先避難企業訓練」が実施されました。

第 5 回目の開催となる今年度は、避難経路と避難場所の確認及び初期消火活動の実地講習を行い、当組合の組合員及び従業員、組合青年部ら約 160 名が参加しました。

訓練を主催した徳島県鉄鋼協同組合の坂本守理事長は、「ゆくゆくは地域の人にも参加してもらい、防災意識の高揚に繋げていきたい。」とお話されました。団地全体としての防災意識が高まり、参加者にとって大変有意義な訓練となりました。

また、平成 29 年 11 月 5 日(日)、徳島県立防災センターにおいて、平成 29 年度「未来を守る防災活動賞」各賞の表彰式が行われ、事業所部門で当組合は優れた防災活動が認められ、「徳島県知事表彰」を受賞されました。



初期消火活動の実地講習



徳島県鉄鋼(協)坂本理事長

JU 徳島チャリティボウリング大会開催 ～徳島県中古自動車販売商工組合青年部～

平成 29 年 12 月 1 日(金)、徳島市のスエヒロボウルにて、徳島県中古自動車販売商工組合青年部主催のチャリティボウリング大会が開催されました。同大会は、お客様、会員、家族間のコミュニケーションを図ることを目的に、毎年実施されており、参加費の一部は、「徳島県の盲導犬を育てる会」に寄付されています。

第 6 回目の開催となる今年度は、55 名が参加し、企業や団体から多くの協賛品が提供されました。当日は大西良範青年部会長から挨拶及び多田勇夫理事長の始球式が行われた後、ゲームがスタートしました。

ゲームは、どのグループも白熱したスコアが展開され、参加者一同、和やかな雰囲気のもと親睦・交流が深まる楽しい時間となりました。



参加者の集合写真

情報連絡員レポート(前年同月比)

この報告結果は、徳島県下の中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役員職員49名に委嘱している中小企業団体情報連絡員による報告を抜粋掲載しております。

【全体の景況】

生コンクリート業や板金工事業等では、出荷量の増加や需要が引き続き順調であるとの明るい声が寄せられた。また解体工事業においても、民需に関して活況を呈している様子が窺える。

一方、慢性化する労働力不足をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に加え、天候不順による出材不足や売上高の伸び悩みに嘆く声も寄せられた。

景気は回復が続いていると言われているものの、日経平均株価は今年最大の下げ幅を記録。依然として不安定な値動きが続いている。更に緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

【製造業】

<食料品>

【味噌】味噌の生産量は前年同月比94.7%、出荷量は99.6%となった。前月比では増加したが、いずれも100%を割っており、減少に歯止めがかかる明るい材料がない。

<木材・木製品>

【製材】経営状況の改善は見られるものの依然として厳しい状況。

【製材】売上高不変。収益状況不変。天候不順による出材不足と輸入材の原木高による仕入困難な状況が続いている。

【木材】秋需にもかかわらず、原木丸太出材量は対前年比7%減となっている。価格相場は無い物高といった状況。手当て買いが旺盛。

【木材】売上高減少。収益状況悪化。全般的に徳島県の景気が回復している気配は全くない。人口減少の影響が著しく表れている。

<印刷>

【印刷】年末を控えているとはいえ、景気上向きの気配は全く感じられない。需要の減少で価格競争も厳しくなっている。

【印刷】10月以降やっと前年並みの受注が確保出来るようになってきたが、国内市場規模はやはり縮小傾向にあり、業界内各社の廃業、統合は進んでいる。

<窯業・土石製品>

【生コン】昨年同月に比べて出荷量は若干増加したが、特需工事も11月でほぼ終了。今後の出荷が落ち込むことが懸念される。

【生コン】出荷量は、対前年同月比5%の増加。今後の需要見通しについては、11月から民需、官需とも新規需要を見込んでいるが、出荷数量は前年をやや下回ると予想。

<鉄鋼・金属>

【鉄鋼】一部引き合いの増加や設備操業度の上昇も見受けられるが、依然として弱含みの状況。

【ステンレス】売上高不変。収益状況不変。引き続き大手を中心に設備投資が行われているが、中小企業については様子見の状況であり、国内外ともに目立った変化はない。

<一般機器>

【機械金属】全体として、売上高や収益状況など良好な水準を維持している。熟練技能者、従業員の確保難が課題になるなど、人手不足感が継続している。

【非製造業】

<卸売業>

【食糧卸】米が平成30年産より、国の減反政策が廃止になる。少子高齢化により、今後益々供給力が落ち込み、更に消費も減ると予想される。

<小売業>

【機械器具】次年度の商材入庫等により在庫数量は増加。また、寒さによる影響なのか業況は厳しい。

【ショッピングセンター】全店ベース：売上100.0%、客数98.5%、既存店ベース：売上101.6%、客数100.2%であった。近隣に子供服の全国チェーン店がオープン予定であり、かなりの影響が出ると思われる。

【プロパンガス】売上高増加。収益状況悪化。需要期に入り、使用量が増えるので収益状況の好転に繋げていきたい。

【電気機器】買換え需要は底堅いものの、全体的な動きは依然として鈍い。一方、LED照明関連は順調。

【量小売業】売上高は不変であったが、一般住宅の需要が動き出す。

<商店街>

【徳島市】天候不順の影響もあって客足が鈍く、売上に伸び悩んだ。しかし後半は客足も伸び、秋冬物の売れ行きも良かった。

【徳島市】前年同月比、業況に特に変化はない。

【阿南市】12月のイベントで業況の好転に繋げていきたい。

<サービス業>

【土木建築業】工事内容により、工事金額が昨年より多くなる。また、工事要望箇所が多くあったり、来年度の事業計画を前倒しで作業している為、担当技術者は多忙である。

【自動車整備】売上高に関しては、登録自動車(普通車)、軽自動車ともに前月に引き続き前年度より僅かに減少。また、点検整備などのサービスに関する収益状況も悪化の傾向である。

【旅行業】旅行業も取り扱っているバス会社では、バスの乗車運賃の上昇もあり需要は好調な様子。しかし旅行業代理店では、インターネットの普及により厳しい状況である。

【広告業】昨年と変わらないが、今後の業況見通しはやや良い。

<建設業>

【建設業】相変わらず公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少。徳島県では「ゼロ県債」の導入により、平成30年度債務負担行為設定額9億円が計上された。

【解体工事業】民間施設の解体工事について、大型工事、民間戸建住宅ともに活況。

【鉄骨・鉄筋工事業】設備操業度が若干低下している工場が見られたものの、仕事量は確保できている様子。

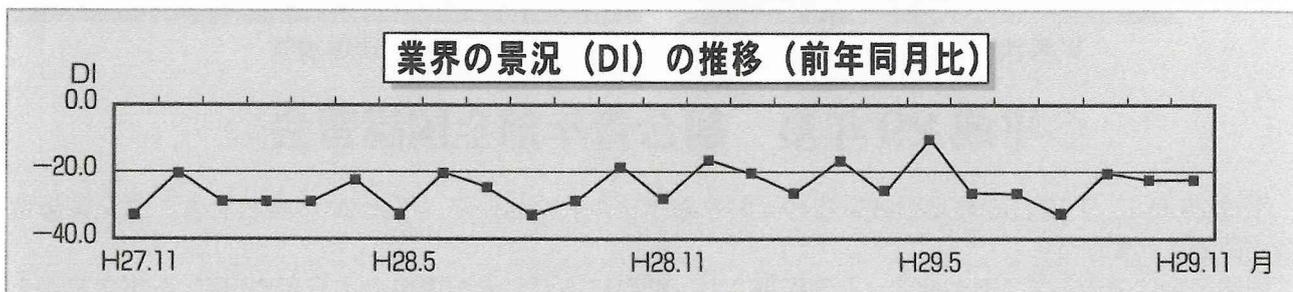
【板金工事業】仕事の受注は順調であるが、人手不足に悩んでいる。

【電気工事業】新設住宅口数は269件であり、対前年比105.9%と微増。

<運輸業>

【貨物運送業】全般的に取扱量は前年並みで推移。軽油単価においては、今年最安値の6月からは約11円の値上げとなり、大幅な収益減となっている。また運転手不足が深刻な状況。

【貨物運送業】燃料価格が上昇している。仕事もトラックもあるが、ドライバーがいらないと言う声も多く、ドライバー不足が売上高減少の一因であるように思われる。



※ DI値とは、各景況項目について「増加」(又は「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値



青年部コーナー

青年部活動トピックス

◇商工 3 団体次世代プロジェクト会議 広島市土砂災害被災地視察◇

平成 29 年 10 月 21 日(土)～ 22 日(日)、広島県広島市の安佐地区・緑井地区へ現場視察に行き参りました。

10 月 21 日(土)には、安佐商工会に於いて広島安佐商工会青年部 常任委員 竹本氏からの安佐地区・緑井地区の被災現状、今後災害に対応するための準備・心構えについてのお話を頂き意見交換が行われました。また、土砂崩れがあった安佐地区の岩山と岩山から近い神社へ行き建物、道路、インフラ等の復興状況を視察致しました。

10 月 22 日(日)には、緑井地区の被災地に於いて現在の建物、道路、インフラ等の復興状況を視察致しました。



安佐商工会にて意見交換



災害状況資料①



災害状況資料②



現場視察

◇平成 29 年度 組合青年部全国講習会◇

平成 29 年 11 月 10 日(金)岐阜県岐阜市の「岐阜都ホテル」において、平成 29 年度組合青年部全国講習会が開催されました。

同講習会に先だつて UBA サミットが開催され、開会にあたり全国中小企業青年中央会 石川会長から挨拶がありました。続いて、UBA サミットで全国中小企業青年中央会の各役員から役員会で決定した事

項、来年度の全国中小企業青年中央会通常総会及び組合青年部全国講習会の開催日時について報告がありました。また、各都道府県の会長が各グループに分かれ、「青年部で取り組んでいる事業、ビジネスマッチング」について意見交換を致しました。

UBA サミット終了後、特許庁 上席産業財産権専門官 西田拓也氏より「企業経営に活きる知的財産」と題しまして、講演が行われました。知的財産権制度の概要から始まり、今後の中小企業向け支援策の情報提供がありました。

懇親会では、岐阜県副知事らもご臨席下さり、郡上おどり保存会が「郡上おどり」を披露する等大いに盛り上がった後、来年度の全国中小企業青年中央会通常総会開催地の徳島県青年中央会と全国講習会開催地の栃木県青年中央会のメンバーから挨拶があり、盛会裡に閉会となりました。



UBA サミット



講習会



懇親会



次年度開催 PR

★今後のスケジュール★

- 平成30年1月19日 愛媛県青年中央会40周年記念式典
- 平成30年1月下旬 徳島県青年中央会第6回役員会
- 平成30年2月6日 組合青年部リーダー交流会議及び新年互礼会
- 平成30年2月中旬 徳島県商工3団体青年部次世代プロジェクト会議
- 平成30年2月22日 四国ブロック会長会議



中央会トピックス

第69回 中小企業団体全国大会（長野県）開催

団結は力 見せよう 組合の底力！～地方創生は連携による地域力アップと強力な発信～

平成 29 年 10 月 26 日(木)、長野県松本市「キッセイ文化ホール」において、第 69 回中小企業団体全国大会（主催：全国中央会・長野県中央会）が盛大に開催されました。

政府をはじめ関係各方面より多数の来賓を招き、全国の中小企業団体の代表者約 2,500 名、うち本県から 30 名が参加して、「実感ある景気回復と中小企業の生産性向上」及び「事業承継の抜本的な見直しなど地域を支える中小企業の持続的な発展」を実現するため、中小企業の拡充に関する 16 項目が決議されました。

これと併せて、本大会では、優良組合（43 組合）、組合功労者（71 名）、中央会優秀専従者（27 名）の表彰が執り行われました。今回当県からは優良組合として徳島県中古自動車販売商工組合、組合功労者として徳島県酒類卸協同組合 理事長 栗飯原一弘氏、中央会優秀専従者として鮎合吉彦氏が受賞されました。



第 69 回中小企業団体全国大会

◆ 優良組合表彰 ◆

徳島県中古自動車販売商工組合



理事長：多田勇夫
昭和63年7月19日設立

主な共同事業：共同購買事業

組合設立以来、中古自動車販売業界の秩序を保つべく、指導、教育、調査研究、情報提供を行う等業界の地位向上を図るため、積極的な活動を推し進めてきた。また近年は、共同購買事業は勿論、時代の流れに沿った傘下組合員が求める事業の展開を図り、組合員の組合事業への積極的な参加を促すほか、チャリティ活動を通じ、社会貢献活動を実施し、業界の発展と地域振興に寄与している。

◆ 組合功労者表彰 ◆

徳島県酒類卸協同組合



理事長 栗飯原一弘氏

永年にわたり、酒類の安全性と品質を追求し、取引先の拡大と配送機能の効率化に取り組み、業界発展に寄与した。その功績が認められ平成 16 年県下の酒類卸業界団体の理事長となり、就任後積極的に商談会に出展するほか、防災備蓄商品へ商品群を挙げ、収益の改善に努めた。また平成 17 年当会常任理事に就任し、県内組合及び中小企業の発展・振興に大きく貢献している。

なお、次期全国大会は、平成 30 年 9 月 12 日(水)、京都府において開催することが決定し、大会旗が大村会長から渡邊隆夫氏（京都府中央会会長）へ継承されました。その後、高田担史氏（中小企業基盤整備機構理事長）のかけ声で万歳三唱、和田 晶宣氏（長野県中央会副会長）の挨拶で閉会となりました。

次期開催地である京都府中央会 渡邊会長に大会旗継承 ▶



徳島ビジネスチャレンジメッセ2017 開催

平成 29 年 10 月 12 日～14 日の 3 日間、アステイ徳島において、「AI（人工知能・藍・愛）～未来を感じる・未来を拓く・未来へつなぐ～」をキーワードに徳島ビジネスチャレンジメッセ 2017 が開催されました。

当会からは 8 事業者がブース出展し、平成 26 年度及び 27 年度補正ものづくり支援事業を実施した事業者の技術の普及、販路開拓や販売支援をすることを目的にブースを設け、パネルや成果物、また事業者自身による試作品の実演や実施事業の説明が行われました。

会期中には、新製品・新技術開発につながる多数のセミナーやビジネス拡大のヒントとなる多彩な講演会も開催され、3 日間の来場者数は 30,000 人に上り、企業や県民の皆さまに、ものづくり補助金の活用事例や事業活動の研究成果を見て頂けるよい機会となりました。

出展事業者

- ・株式会社山文
- ・合同会社多田木型製作所
- ・北島酸素株式会社
- ・D-PLAN 株式会社
- ・アイハラ貿易株式会社
- ・株式会社岡萬商店
- ・株式会社とり信
- ・株式会社フクブル（順不同）



ものづくり補助事業者による成果事例を展示

四国4県中小企業団体中央会合同 ものづくり企業展示商談会を開催

平成 29 年 11 月 1 日、2 日に、東京大手町の三井生命ホールにおいて、販路拡大を目指す四国 4 県のものづくり企業 30 社（徳島県 7 社）の展示商談会を開催しました。

当展示商談会は、ものづくり補助金を活用し、成果を上げている四国の中小企業の優れた製品・技術等の販路開拓を支援することを目的に、今回初めて四国 4 県中央会合同での開催となりました。

両日の展示商談会では、65 社 100 名余の招致企業・バイヤーが来場し、参加企業は熱心に自社製品・技術等を売り込み、商談を行いました。商談の空き時間には、経営支援 NPO クラブのコーディネータが出展企業と今後の販路開拓について詳細かつ具体的なアドバイスを行うなど、出展企業ブースでは空席がほとんどない状態で、盛況裡に閉会しました。

参加企業

- ・株式会社アクティス
- ・朝日音響株式会社
- ・株式会社アス力
- ・株式会社石飛製作所
- ・有限会社クールテクノス
- ・日本システム開発株式会社
- ・株式会社山文（順不同）



展示商談会オープニング
セレモニー風景



展示商談会会場 風景

中小企業新ものづくり・新サービス展2017 (大阪・東京)出展

全国中小企業団体中央会主催のものづくり補助事業成果発表・ビジネスマッチング会「中小企業新ものづくり・新サービス展2017」が大阪・東京で開催されました。

平成29年11月28日～30日の大阪会場（インテックス大阪）に徳島県から3社、平成29年12月6日～8日の東京会場（東京ビッグサイト）に2社が出展しました。

それぞれの事業者が展示ブースにて、取り組み成果などをまとめたパネルや試作品の展示を行い、各社の強みや魅力を発信しました。また、本会が発刊した「ものづくり補助事業成果事例集」を来場者等に配布しました。「平成26・27年度補正ものづくり補助事業成果事例集」は徳島県地域事務局でも入手いただけます。

出展事業者

【大阪】

- ・株式会社アクティス
- ・有限会社倭麵工房
- ・株式会社栄工製作所

【東京】

- ・株式会社山文
- ・株式会社網や（順不同）



大阪会場

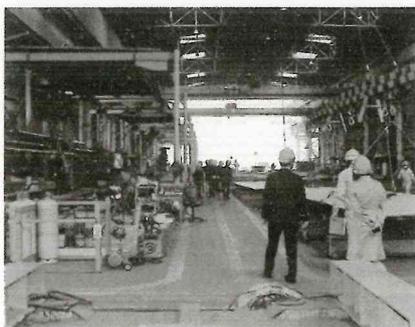


東京会場

大学と業界団体が協調した 中小企業の人材定着支援事業を開催

この事業は、労働人口の減少が叫ばれる中、特に徳島県においては若年層の県外流出が顕著である現状を踏まえ、徳島県内の魅力ある中小企業を徳島県内の各大学等の就職担当者に紹介し、仕事内容を実感・体感していただき、中小企業に対する現状認識を深め、就職希望学生に発信することで地元定着に繋げることを目的としたものです。

平成29年11月7日(火)には徳島県鉄鋼協同組合の傘下である(株)アルス製作所、(株)山本鉄工所で現場視察をさせていただきました。また、11月14日(火)には協同組合徳島県機械金属工業会の傘下である四国化工機(株)、日本フネン(株)で現場視察をさせていただきました。



(株)アルス製作所での視察風景



(株)山本鉄工所での視察風景



四国化工機(株)での視察風景



日本フネン(株)での視察風景

徳島県と「とくしま消費者志向経営推進組織」を 発足しました。

平成 29 年 10 月 13 日(金)、徳島市のアスティとくしまにおいて、「とくしま消費者志向経営推進組織」を設立するとともに、基調講演とパネルディスカッションにより企業が消費者志向経営を考える機会として「とくしま消費者志向経営推進キックオフシンポジウム」が開催されました。

平成 29 年 7 月、県庁 10 階に消費者庁等の消費者行政の発展・創造の拠点となる「消費者行政新未来創造オフィス」が開設されたところであり、消費者志向経営を推進していくために、今回地方初となる「とくしま消費者志向経営推進組織」が発足されました。

基調講演では、福岡審議官から消費者志向経営の趣旨や自主宣言について、公益社団法人消費者関連専門家会議（ACAP）の佐藤専務理事から消費者と事業者の関係性の変化に伴う経営の在り方等についての説明がありました。最後に県内事業者、消費者、徳島県によるパネルディスカッションが行われ、取組事例の紹介等を行い、消費者志向経営の理解を深めました。

今後本会では、「とくしま消費者志向経営推進組織」を中心に、消費者志向経営の概念の普及および消費者志向経営の実施に取り組むことを自ら宣言する「消費者志向自主宣言」を多くの企業に実施してもらえよう活動して参ります。



消費者庁審議官による基調講演



徳島県と本会を含む経済団体（8 団体）からなる「消費者志向経営推進組織」を発足

徳島県と「とくしまエコパートナー協定」を 締結しました。

平成 29 年 11 月 13 日(月)、徳島県庁において、とくしまエコパートナー協定の締結式が行われました。平成 29 年 1 月に施行された「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」において、県民・事業者などあらゆる主体が主役となって取り組む「県民総活躍」が基本理念として掲げられています。

この度「県民総活躍」を具現化するため、気候変動対策の推進に意欲を有し、県と共同して事業を企画立案し実施する事業者の一つとして本会が選ばれ、徳島県と本会の間で「とくしまエコパートナー協定」を締結しました。

引き続き本会では、徳島県が企画・開催する環境関連のセミナー等の共催や、チラシ・ホームページ等での本会会員への情報提供、また気候変動に係る広報啓発に積極的に取り組んで参ります。

平成 29 年度第 2 回
「とくしまエコパートナー」
協定事業者

- ・ 徳島県中小企業団体中央会
- ・ 株式会社山全



徳島県と「とくしまエコパートナー協定」を締結

何かとストレスの多いこのご時世。職場や家庭で居づらさ生きづらさを感じている方も多いかもしれません。

このコーナーでは、そんなあなたのために、筆者がコミュニケーション心理学の一つであるNLP（神経言語プログラミング）で学んだことを通して、日常生活を少しでも楽に過ごすためのコツをわかりやすくお伝えしていきたいと思っています。

今回のテーマは

「チャンクを意識して、コミュニケーションを円滑に」

まずは、これは何でしょう？

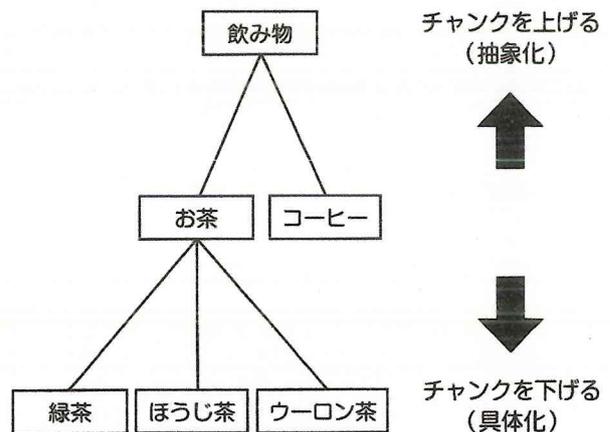


おそらく多くの方が「お茶」と答えたのではないのでしょうか。

もちろん、「飲み物」と答えても間違いではありませんし、「緑茶」や「ほうじ茶」と答えても正解かもしれません。

これらの答え方にその人が認識しているところや焦点を当てているところが現れているのです。

何かの物事を認識するときに、いくつかのカテゴリーに分類することができます。そのカテゴリーのことを「チャンク」と言います。チャンクとはもともとは「かたまり」や「まとまり」のことです。私たちは無意識に自分にとって適切なチャンクを選択しています。



チャンクは上げると、物事が抽象的になり、下げると具体的になるという効果があります。なので、コミュニケーションをとる中で、今、相手がどのチャンクで物事を認識しているかを感じることはとても重要なことなのです。

○ チャンクを下げることのメリット

例えば、妻が夫に「パンを買ってきて」と頼んだとします。

妻は食パンをイメージして頼んだつもりなのに、夫があんパンやカレーパンを買ってきたらどう思うでしょう。夫は妻の依頼を実行したつもりですが、妻は自分の要求に期待どおりに応えてくれない夫にイライラする。そんな情景が浮かびます。

この場合、妻は一つチャンクを下げて、「食パンを買ってきて」と頼むべきだったかもしれません。もしかしたら、さらにもう一つチャンクを下げて、食パンの商品名まで指定すべきだったかもしれません。

逆に夫の方も、頼まれたときに、どんなパンが欲しいのかをもう少し詳しく（チャンクを下げて）確認する必要があったでしょう。

このようにチャンクを下げるということは、他との区別や差異をより細かくわかりやすくしていくことです。このことでコミュニケーションエラーが減り、円滑に会話を進めることができます。

○ 他者とのコミュニケーション以外でも

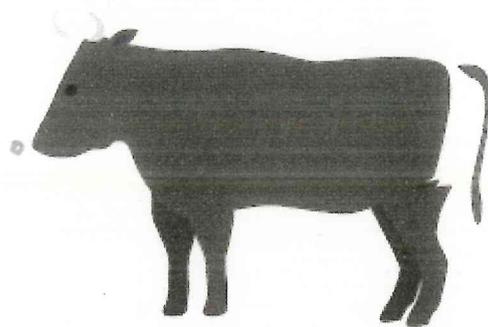
もし「牛一頭をまるまる一人で食べてください。」と言われたらどう感じますか？

おそらく多くの方は「そんなの無理だ」と感じるでしょう。ですが、牛を部位ごとに細かくスライスしているイメージをしてみてください。するとどうでしょう、時間はかかっても全部食べられるかもしれないと思いませんか。

これと同じように、あなたの目の前にある目標や課題が大きすぎて、重荷に感じているなら、その大きさに圧倒されて、とてつもない行動を起こさなければならないという恐れに囚われているのかもしれません。

そんなときは目標の全体像の大きさに圧倒されるのではなく、大きな目標や課題をひとつひとつの行動に小さく分割して考えてみてはどうでしょう。まさに千里の道も一歩から。いつか目標に到達できるでしょう。

今回はチャンクを上げることのメリットに触れていきますので、お楽しみに。



(M)

日本全国 名城めぐり

備中松山城

所在地：岡山県高梁市内山下1 / 築城種類：山城
 築城年代：延応2年(1240)、慶長10年(1605)頃、天和元年(1681)
 築城者：秋庭重信、小堀政次・政一、水谷勝宗
 天守の現況・形態：層塔型 二重二階 木造 (現存)

備中松山城は、秋葉重信が鎌倉時代の延応2年(1240)に築城したのが始まりとされます。城のある臥牛山は、中国山地と瀬戸内海とを結ぶ交通の要衝を見下ろす位置にあり、毛利家などの城塞として機能していました。江戸時代になり、小堀正次・政一親子の修築を経て、水谷勝宗による天和年間(1681~1684)の大改修で近世三大山城とされる最終的な城の形となりました。

城の縄張は、4つの峰にまたがり、標高430mの小松山の本丸に建つ天守は、国の重要文化財で、現存天守を持つ山城としては最も高い所にあり、現存天守12城の中でも最小ですが、自然の岩盤の上に天守を築き、正面の大きな出窓がアクセントとなって重厚感を出しているため、間近に立つと、それ程小さく感じられません。

天守1階には、全国的にも珍しい囲炉裏があり、籠城時の城主の食事、暖房用に用いられ、戦国時代、城の激しい争奪戦が幾度も繰り返された経験から生まれたものであると言われています。

備中松山城のある高梁市の市街地は、狭い盆地となっており、秋から冬にかけて深い霧に覆われ、備中松山城は、霧の上に浮かんで見えることから雲海に浮かんだ天空の山城と称されます。雲海に浮かんだお城に朝日が差し込んだ風景は、幻想的で多くの人々を魅了しています。雲海が見える時期は、秋から冬にかけての早朝で、前日と次の日の早朝の気温差が大きいほど、雲海が濃く、お城付近まで上がった、いい状態の雲海を見ることができると言われています。(崇)



「群盗」

2015年日本公開 / 上映時間：2時間17分

監督・原作・脚本：ユン・ジョンビン / 武術指導：チョン・ドゥホン

出演者：ハ・ジョンウ、カン・ドンウォン、イ・ギョンヨン、マ・ドンソク 他



悪徳官僚や富豪貴族の支配の中、民衆は搾取と弾圧に苦しんでいた朝鮮王朝末期。貧しさにあえぎながら生きるトルムチ(ハ・ジョンウ)は、剣術の使い手で冷酷な武官ユン(カン・ドンウォン)に依頼された特別な仕事を引き受けたことから、最愛の家族全員を殺されるという悲劇に見舞われる。義賊団に助けられたトルムチはユンへの復讐を誓い、義賊団と共に戦うことを決心する。

実は私、主演のハ・ジョンウに夢中で、現在ハ・ジョンウ映画全制覇計画を遂行しております。ハ・ジョンウはどんな役でも見事に映じきる役者ですが、本作の“屠殺人”トルムチも素晴らしいの一言。そして義賊団のメンバー達も魅力的な面々ばかりで、怪力、瞬殺者、紅一点の弓撃手、戦略士、副官的存在の坊主、文武ともに優れた頭領、みんな最高でした。

さらにこの映画の凄いところは、悪役のユンがものすごく憎たらしくて、かつ魅力的なところ。ユンを演じるカン・ドンウォンの華麗な舞いのような剣術の身のこなしは本当に見事で見とれてしまいました。

男女問わず心が燃え上がること間違いなしで、おまけに涙涙の感動もあり、これ以上のエンターテインメント映画は作れないのでは?!と思うほど素晴らしい作品でした!(典)

お知らせコーナー



～雇用関係助成金のご案内～

平成 29 年度の雇用関係の助成金についてご紹介します。

雇用の安定、職場環境の改善、仕事と家庭の両立支援、従業員の能力向上などに、ぜひご利用ください。

区分	番号	助成金名	
雇用維持関係の助成金	1	雇用調整助成金	
再就職支援関係の助成金	2	労働移動支援助成金	I 再就職支援コース II 早期雇入れ支援コース III 人材育成支援コース IV 移籍人材育成支援コース V 中途採用拡大コース
雇入れ関係の助成金	3	特定求職者雇用開発助成金	I 特定就職困難者コース II 生涯現役コース III 被災者雇用開発コース IV 発達障害者・難治性疾患患者雇用開発コース V 三年以内既卒者等採用定着コース VI 障害者初回雇用コース VII 長期不安定雇用者雇用開発コース VIII 生活保護受給者等雇用開発コース
	4	トライアル雇用助成金	I 一般トライアルコース II 障害者トライアルコース III 障害者短時間トライアルコース
	5	地域雇用開発助成金	I 地域雇用開発コース II 沖縄若年者雇用促進コース
	6	生涯現役起業支援助成金	
障害者等の雇用環境整備関係の助成金	7	中小企業障害者多数雇用施設設置等助成金	
	8	障害者雇用安定助成金	I 障害者職場定着支援コース II 障害者職場適応援助コース III 障害・治療と仕事の両立支援制度助成コース
	9	障害者職業能力開発助成金	
	10	障害者作業施設設置等助成金	
	11	障害者福祉施設設置等助成金	
	12	障害者介助等助成金	
	13	重度障害者等通勤対策助成金	
	14	重度障害者多数雇用事業所施設設置等助成金	
雇用環境の整備関係等の助成金	15	職場定着支援助成金	I 雇用管理制度助成コース II 介護福祉機器助成コース III 介護労働者雇用管理制度助成コース IV 保育労働者雇用管理制度助成コース V 中小企業団体助成コース

区分	番号	助成金名
雇用環境の整備関係等の助成金	16	人事評価改善等助成金
	17	建設労働者確保育成助成金 I 認定訓練コース II 技能実習コース III 雇用管理制度助成コース IV 登録基幹技能者の処遇向上支援助成コース V 若年者及び女性に魅力ある職場づくり事業コース VI 若年・女性労働者向けトライアル雇用助成コース VII 建設広域教育訓練コース VIII 作業員宿舎等設置助成コース IX 作業員宿舎等設置助成コース
	18	通年雇用助成金
	19	65歳超雇用推進助成金 I 65歳超継続雇用促進コース II 高齢者雇用環境整備支援コース III 高齢者無期雇用転換コース
	20	両立支援等助成金 I 事業所内保育施設コース II 出生時両立支援コース III 介護離職防止支援コース IV 育児休業等支援コース V 再雇用者評価処遇コース VI 女性活躍加速化コース
キャリアアップ・人材育成関係の助成金等	21	キャリアアップ助成金 I 正社員化コース II 人材育成コース III 賃金規定等改定コース IV 健康診断制度コース V 賃金規定等共通化コース VI 諸手当制度共通化コース VII 選択的適用拡大導入時処遇改善コース VIII 短時間労働者労働時間延長コース
	22	人材開発支援助成金 I 特定訓練コース II 一般訓練コース III キャリア形成支援制度導入コース IV 職業能力検定制度導入コース
	23	職場適応訓練費

【詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。】

編集 後記

- ◆ 第145号発刊にあたり、関係機関の方々からご協力いただきありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

- ◆ 今回は、巻頭に「山本会長の新年ごあいさつ」を掲載致しました。また、「徳島県の労働事情」について特集しました。詳細については、中央会までお問い合わせ下さい。

- ◆ 今回「ものづくりの達人」では株式会社石飛製作所様を訪問させて頂きました。同社は、創業90余年培ってきた豊かな実績とノウハウ、さらに新たな発想やアイデアを活かしながら、お客様のニーズに柔軟かつ迅速に対応されており、その姿に非常に感銘を受けました。また技術のみならず、人との繋がりや調和を大切にされてきたからこそ、顧客から大きな信頼を得られているのだと感じました。この度は貴重なお時間を頂きありがとうございました。

- ◆ 当情報誌（平成28年度第3号）の表紙を飾った「だるま朝日」をお正月に小松海岸で見てきました。だるま朝日とは、太陽の曇気楼現象の一種で、11月下旬～2月中旬頃までにかけて、ある一定の条件下でしか見ることができないもので、徳島県の東海岸は絶好のスポットとなっています。水平線から昇るだるま朝日を実際に目の当たりにすると、想像以上に美しく大変感動しました。縁起の良い一年の始まりとなりました。

今年も微力ながら、皆様のお役に立てますよう日々努力して参ります。皆様にとって素晴らしい一年となりますようお祈り致します。

vol. 03

平成29年度 第3号
(年間4回発行 通巻第145号)

組合活性化情報
中央会とくしま



南阿波サンライン 水彩画/布川 嘉樹